

内済議定証文之事

一、氏神八幡宮御神事之儀前々引分レ居リ候処、上下村内
 一統仕、湯立并夜宮灯籠相付神事相勤候処、去年
 夜宮灯籠之儀ニ付若者聊故障有之候ニ付、仲人立入
 品能引分レ申候処、又候湯立之儀茂引分レ申度由故障
 有之候ニ付、扱人立入内済之趣意左ニ議定仕候

一、当日御神事湯立之儀、上下村内一統仕相勤候筈、
 夜宮灯籠之儀者無之積リ、勿論双方より寄進灯
 籠等茂御座候得共、此儀者下郷二者不及遠慮ニ上郷二而
 勝手次第相付候積リ、其外風祭等不寄何事ニ灯明
 等双方是亦勝手次第、且去年下分引分置候灯籠
 之儀者、扱人貫請社内奉納仕候、尤下郷二而も不限何事ニ
 灯籠入用之節者相用候筈、万一末々御神事不和合
 之節者、双方相談合ヲ以何連ニ茂可仕候、且双方
 憤リ之儀者扱人貫請、至極納得仕候上者相互ニ
 已来睦間敷御神事修行可仕候、為後証内済
 議定連印、仍而如件

下糟屋村

文化八辛未年七月

年番組頭	宇兵衛印
名主	新五左衛門印
同	卯右衛門印
同	佐七印
同	長左衛門印
高森村扱人	桑右衛門印
栗久保村扱人	七兵衛印